平成29年度認知症地域支援推進員研修 II 認知症の人とその家族の支援体制の構築及び 認知症ケアの向上を図るための取組みの推進 『支援体制構築(事例②)』

# 認知症になっても安心して まっち 暮らせる鳥取市を目指して



鳥取県鳥取市認知症地域支援推進員 金谷佳寿子

(社会福祉法人地域でくらす会いくのさん家)

# 鳥取県の位置とアクセス

東京 ⇔ 鳥取・米子 (ANA) 約75分



# 鳥取と言えば・・・・









# 鳥取市の現状 (平成28年9月末)

積 76,531km<sup>\*</sup> 人 口 191,088人 内 6 5 歳以上人口 51,570人 高齢化率 27.0% 要介護認定者数 10,276人 要介護認定率 19.9% 若年認知症(40~64歳) 124人 日常生活圏域数 18圏域 地域包括支援センター数 5か所 認知症地域支援推進員数 2名





# 鳥取市の認知症施策

第6期 鳥取市介護保険事業計画・高齢者福祉計画

«基本理念» 笑顔があふれ 心やすらぐまちづくり

«基本目標» 地域包括ケアシステムの実現を目指す

#### 重点施策

(1) 在宅医療・介護連携の推進

#### (2)認知症施策の推進

- (3) 生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進
- (4) 高齢者の生活を支える住まいとサービスの確保



## 認知症地域支援推進員の役割

- 1・本人、家族のための相談支援
- 2・各圏域での認知症カフェの開催
- 3・認知症ケアの普及、啓発
- 4・専門職と住民をつなぐネットワークつくり

鳥取市、地域包括支援センターと協働



# 認知症カフェの取組みの経緯

平成27年7月

社会福祉法人地域でくらす会いくのさん家が鳥取市認知症地域支援推進員設置事業を受託。

平成27年8月

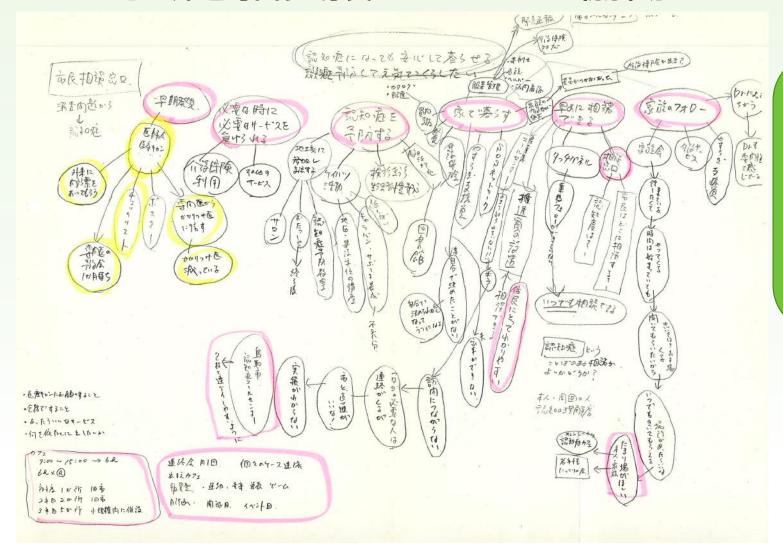
平成27年度第2回認知症地域支援推進員研修に参加

・・・介護支援専門員連絡会などで、発表の機会をもらうが、自分の思いをうまく伝えれず、

認知症地域支援推進員として、何をすれば成功になるのか、悩む日々。

地域包括支援センターの保健師さんと、何度も話し合いを行う。

## ●地域包括支援センターとの協働



この人と話すと楽しいな。 この人となら出来るかも。 私たちがやりたい認知症カフェを まずやってみよう!! やりながら、その都度方法を 考えていけばいい。 同じ思いをもつ仲間を増やそう。



といあえず!!

## 地域包括支援センターと、 お試し認知症カフェをやってみよう!!

- 3 つの地域包括支援センターの圏域で、それぞれ月 1 回開催デイサービスとの違いは何? サロンとの違いは何? カフェって珈琲を飲む場所でしょ?!
  - → 勉強会を開催

● 個別で相談のあった A さん、B さん、Cさんをカフェに呼んでみよう。

色々な相談がつながる・・介護悩むAさんには介護しているBさん、

介護しているBさんには、同じ思いで介護をしているCさん

→認知症カフェで偶然に出会って、補いあえる関係

相談にのってもらったり、誰かの役に立てたり そこに専門職がいる



夫の介護が 終わったもさん

#### 仲間作り

仕事が決まらな くて母親を叩い てしまうBさん

認知症の母の

対応の仕方が

不安なAさん

若年性認知症と 診断され仕事を 辞めたCさん。

#### 専門職との出会い

專門職

何か活動したい と考えている 認知症サポーター、 キャラバンメイト

居場所作り

## 認知症カフェでは・・

COMMON 吉方温泉の庭 の手入れが気 になるなー

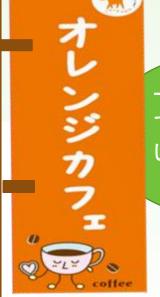
毎日の介護 で身体がく たくた・・

最後まで妻の 面倒はわしが みない と・・・



毎日の献 立や調理 が一番困 る・・・





一人暮らし で話相手が いなくて寂 しいな。





## 認知症カフェでは・・

COMMON 方温泉の庭 入れが気 るなー

毎日の介護 で身体がく たくた・・

最後まで妻の 面倒はわしが みない と・・・

毎日の 立<sup>ヤ</sup> が、ス・ 次につながる ヒントが 沢山!!

一人暮らし で話相手が さくて寂 な。

介護保険サー ビス、どう やって利用し たらいいか分 からない。







認知症の母の 対応の仕方が 不安なAさん



夫の介護が 終わったĐさん

専門職











#### 仲間作り



仕事が決まらな くて母親を叩い てしまうBさん

若年性認知症と 診断され仕事を 辞めたCさん。

専門職との出会い

何か活動したい と考えている 認知症サポーター、 キャラバンメイト



# 仲間と地域へ!

- ●出前講座
- ●認知症予防教室
- ●認知症サポーター養成講座



※地域包括支援センターと協働で企画、立案を行う 行政のみでなく、小規模などの他の介護保険事業所と一緒に行なう 書面のやりとりじゃなくて、気の合う仲間とざっくばらんに話せる

→効果的にネットワークが作れる

●認知症サポーター養成講座の開催

小中学校へ!!







### ●苦慮したところ

- ・認知症カフェの周知
  - →来てほしい人に、どうやって来てもらうか。
  - →カフェの良さをどうやったら分かってもらえるのか。
- •目的の明確化
  - →回を重ねると、目的を見失ってしまうことも・・・・

#### ■工夫したところ

- ・1人の支援を丁寧に、じっくり関わり、仲間を増やす
- ・広報(チラシ作成、新聞、ラジオ、市報、ケーブルテレビなど)
- ・鳥取市認知症カフェ連絡会設立(年2回程度開催)
- ・認知症カフェ運営の手引き作成
- ·認知症カフェ運営事業費補助金制度の創設 → 施策につながった

#### ●オレンジカフェの成果

- 相談支援の場として、有効活用

介護保険サービスの利用や受診につながった 参加者同士が見守りを行い、不安な時に声をかけてくれるようになった 地域の方が、認知症の人とうまく付き合ってくれるようになった 「将来認知症になっても、認知症カフェがあると思うと安心」

・新たな関係性の構築

介護者同士のつながり(男性介護者の会、若年性認知症の母を介護する娘の会) 民生委員や地域のサロンのお世話係さん、キャラバンメイトとの連携 「鳥取東部認知症を語る会」を有志で設立

支援者の輪が広がった→出来ることも多くなった

- つながる

カフェで困っていることを気軽に話せ、新たな取り組みに繋がることが増えた

# 現在の認知症カフェ

- ●鳥取市内の地域包括支援センター5圏域に1か所ずつの設置を 目指して、平成27年9月から、包括支援センター保健師と協働で企画 現在鳥取市内で8か所
- ●平成27年9月~平成29年3月末の参加延べ人数1,413人
- 1回の参加人数は10~30人
- ●ケアマネジャーからの問い合わせも少しずつ増加





# 課題

●認知症カフェは一つのツールであり、開催することが 目標にならないように

実施主体は様々で、それぞれ違った内容のカフェだとしても、目的や思いを忘れないこと

- ●地域の住民がそれぞれ、自分に合った居場所に行くことが出来る 困った時に、地域で支えていける関係作りが必要
- ■認知症カフェでの交流を通して、推進員活動の見直しを!

地域の実情を受け止めること、固定観念にとらわれないこと、任せること サービス事業所の認知症対応力の向上

# 今後の活動、取組みの方向性

- ●鳥取市認知症カフェ連絡会の活用
  - •連絡会
  - ・公開講座・・・地域住民、専門職への啓発
- ●認知症になっても、ここに来たら大丈夫と思える居場所
  - →地域の社会資源の中の一つとして浸透するように、今は種まきの時期と考えて、焦らない事。
- ●各地域包括支援センター圏域ごとの課題を、地域で考える仕組みを作る
  - →徘徊模擬訓練、やすらぎ支援員育成、キャラバンメイトの連絡会の開催など

# これから認知症地域支援推進員として活動されるみなさまへ

- ●自分の得意を活かす
  - ●じつくりと腰をすえて、一人の支援を丁寧に
- ●周りの人をどんどん巻き込んで、仲間を増やす
  - → 自然とネットワークが広がる
- ●いいと思ったらなんでもやってみる

# すご!!鳥取市場

ご清聴ありがとうございました。